

8割バツサリ! **整理術2012** 書類から人脈まで「捨てる時&捨てる方」完全ガイド

■ 日経ビジネス

2011年11月15日発行・発売(毎月2回第1・第3火曜日発行・発売)
第10巻第20号通巻240号 2002年10月3日第三種郵便物認可

日経ビジネスアソシエ

2011

12

06

定価 590 YEN

Associé

「捨てる時&捨てる方」完全ガイド

書類、本から人間関係、
パソコンの中身まで

整理術

2012

持ち物の8割はガラクタ!

「捨てる人」になる7つの心得

達人の“美デスク”に学ぶ

現在・過去・未来の3分類を徹底/ラックと手帳で一元管理/
「見返し儀式」で書類をすべて廃棄/「残す/残さない」期限を設定…

SNS、口座、パスワード、衣類…

プロの“捨てるテク”大公開!

「捨てる」をアシストする文具&グッズ

特集2 検索、Gmail、カレンダーをもっと便利に!

グーグル 活用術

200%

スマホと連動、
世の中の動きも読める!



好意の押しつけ「～てさしあげる」に注意

シーン1

部長が重そうな荷物を持っているのを見て、
Aさんが思わず言った一言

Aさん「部長、その荷物、持ってさしあげますよ」

部長「いや、別にいいよ」(何か恩着せがましいな…)



Point

立場が上の人に
「～てさしあげる」と言うと、
好意の押しつけと思われて
しまうことがある

解説

Aさんは、重そうな荷物を持っている部長が気の毒と思って、好意から「持ってさしあげますよ」と言ったのだが、部長には恩着せがましい思われてしまった。丁寧に言ったつもりでも、語感としては、「持ってあげますよ」と同様に、上から目線の発言と捉えられる場合がある。相手が自分と同等、それ以上の立場の場合、好意の押しつけになるので避けた方がいい表現だ。こういう時は、「お持ちしましょうか」と尋ねればいい。相手も「大丈夫」、もしくは「お願いしてもいいかな」などと答えるだろう。

<複雑な人間関係の中で言葉を選ぶ>

上下関係	例:会社で一般社員が部長に対して
先後関係	例:後輩が先輩に対して
利害関係	例:ホテルで従業員が宿泊客に対して
恩恵関係	例:生徒が先生に対して
親疎関係	例:初対面の相手に対して
内外関係	例:配偶者の親に対して

Point

自分がどんな立場で、
誰に対して、どう話すかを
しっかり意識しよう

人は複雑な人間関係の中で会話をしている。左に挙げた例は、相手に対して敬語を使うシーンだ。そこでは、「～てあげる」のような表現は失礼に当たる。

あなたの上司が重そうな荷物を持っている。どう声をかける？

①「持ってさしあげますよ」

②「お持ちしましょうか」

正解は②。①は上司を不快な気持ちにさせてしまう可能性があるからだ。

「持ってさしあげる」は、丁寧な言葉遣いのように見えるが、実は相手からすれば「上から目線でものを言っている」「恩着せがましい」と捉えられかねない。

恩恵のやり取りが生じる

物の受け渡しには、「あげる」「もらう」「くれる」「やる」「さしあげる」「くださる」「いただく」といった授受動詞と呼ばれる表現がある。この動詞の前に「て」がつくと、「～てあげる」「～ってもらう」「～てくれる」といった授受補助動詞になる。会話例の「持ってさしあげる」という表現だ。

授受補助動詞になると、物の授受ではなく、好意の授受に意味合いが変化する。例えば、「持ってあげる」「持ってもらう」では、単

なる物のやり取りだけでなく、好意もやり取りされている。つまり、相手の気持ちを考えないと、「好意の押しつけ」になることもあるわけだ。

「持ってさしあげる」も、「持ってあげる」や「持ってやる」を敬語に言い換えたに過ぎず、「好意の押しつけ」になる可能性があることに変わりはない。そう考えると、上司に対しては、不適切な発言になるのが分かるだろう。

「重いだろう」と、勝手に相手の気持ちを決めつけてしまうのも軽率だ。こういう時は、「お持ちしましょうか」と、相手に尋ねてみるといい。手助けが不要なら「大丈夫」、必要なら「お願いしてもいいかな」などと上司も答えるのではないだろうか。

いずれにせよ、授受補助動詞を立場が上の人に対して使うのは避けた方がいい。「その棚の書類なら、私が取ってさしあげますよ」「必要なものがあれば、買ってきてさしあげますよ」など、普段の会話の中で何気なく使われている

シーン2

急に雨が降ってきて困っている様子の部下を見て、
部長が言った一言

部長 「A君、傘を持ってきてないの?
私は置き傘があるから、この傘を貸してあげるよ」
Aさん「ありがとうございます」(部長って意外と優しいんだな…)



Point

「～てあげる」は
上の立場の人が下の立場の人に
使うと感謝されることがある

解説

部長の気遣いのある一言に、Aさんは感激している。シーン1と同様に、「～てあげる」の表現を使っているのだが、自分より下の立場の人に使う場合はほとんど問題がない。問題があるとすれば、自分の方が立場が上であることを暗示するような「～してあげようか」という表現。こうなると、相手は嫌みと捉える。

<人間関係による表現の違い>

(部長は) 「傘を貸した」

→ 事実

(部長が) 「傘を貸してくださった」

→ 上の立場の人からの恩恵の授受。動作の主体は与え手になる

(友達が) 「傘を貸してくれた」

→ 同等の立場の人からの恩恵の授受。動作の主体は与え手になる

(私が) 「傘を貸してもらった」

→ 同等の立場の人からの恩恵の授受。動作の主体は受け手になる

(私が) 「傘を貸していただいた」

→ 上の立場の人からの恩恵の授受。動作の主体は受け手になる

実践日本語教育
を学ぶ人のために

佐々木瑞枝



「実践日本語教育を
学ぶ人のために」

佐々木瑞枝/世界思想社/2310円

日本語を学ぶ外国人を指導する日本語教師向けの解説本だが、この連載と同様に、具体的な会話例が数多く載っており、ビジネスパーソンにも役立つ。自分の中で曖昧に使っている日本語を、改めて見直すきっかけがつかめる。

ことが多い授受補助動詞。善意で声をかけたのに、その気持ちが伝わらないどころか、逆に相手を不快にさせてしまったということがないように注意したい。

部下や後輩に使うのならOK

一方で、授受補助動詞が効果を発揮するシーンもある。部下や後輩に対して、気を配っていることを表現したい時だ。上司ではなく、部下や後輩が重い荷物を持っていた時に、「持ってきてあげるよ」と、さつと荷物を取る。相手は申し訳ないと思うかもしれないが、上の立場の人から親切にされたことに對し、親近感や感謝の気持ちを持つだろう。

もし、上司からこうした好意を受けた場合は、上司がいる場で同僚などに「重い荷物を持っていたんだ」などと、授受補助動詞を使っている感謝の気持ちを言葉にするといい。上司も自分の好意が通じたとうれしく思うに違いない。

注意したいのは、立場が上だということを暗示するような「～してあげるよ」。言葉は同じでも、相

手を明らかに下に見ている態度が表に出ているケースだ。こうなると、相手は嫌みと捉える。この他、好意のつもりでも、相手に「過剰な好意」と思われてしまうと、むしろ互いの関係に壁を作ってしまうので気をつけた。

円滑なコミュニケーションのコツは、人間関係の機微を踏まえたうえでの言葉選びである。上下関係、利害関係、恩恵関係、親疎関係など、お互いの立場や距離感をしっかりと把握したうえで、適切な言葉を使うようにしよう。

本連載で日本語の複雑さ、曖昧さ、面白さを感じていただけただろうか。日本語により関心を持っていたら幸いである。



佐々木瑞枝さん

Mizue Sasaki

武蔵野大学大学院教授
京都府生まれ。エコールブランタン日本語教師養成講座講師。専門は日本語学(日本語を「外」から見る)(小学館101新書)、『外国語としての日本語』(講談社現代新書)、『実践日本語教育を学ぶ人のために』(世界思想社)など著書多数。
<http://www.nihongonosekai.com/>